

碁楽連の活性化

現ホームページ 担当 松田礼治

趣味の多様化、インターネット上で24時間いつでも好きな時に対局可能等で碁会所へ通う人口が減る傾向にあることは否定できません。また60才で老人扱いされる事に抵抗を感じ老人会離れが起 こっています。碁楽連でも新たな入会者が少なく極度に高齢化し何らかの対策が不可欠です。平成18年度総会で碁老連(八王子の碁を楽しむ老人連合)から碁楽連(八王子の碁を楽しむ活いき連合)に改名し、老人の文字を削除し若手も抵抗なく入会できるようにいたしました。広報手段としてホームページも開設しました。環境整備の第1ステップは行いましたが、第2ステップには進んでいません。

最近、碁楽連の課題、活性化等について会員諸兄の関心が高まり会誌上で活発に議論されるようになりました。杉渕清さんが碁楽連だより222号に「碁楽連のボランティア」、望月成一さんが碁楽連だより233号に「八王子に囲碁文化の花を咲かせたい」、廣島松治さんが碁楽連だより235号に「八王子囲碁界の発展を願う」を投稿されています。再度ご一読をお願いしたい。

年齢、性別、棋力に関係なく誰でも会場に出向いて碁を楽しむ事ができるのが理想です。実現するには環境整備、会員の入会勧誘、社会貢献の面から検討し幾多の困難を乗り越えていく必要があります。先に述べましたように碁楽連(八王子の碁を楽しむ活いき連合)に改名し、名称からは老人を削除しましたが規約からは60才の壁を外すには至っていません。規約の改正、東浅川保険福祉センター使用料(60才以上は無料)有料化等の問題も合わせて総合的に検討する必要があります。先の長い話です。

まずは出来ることからやりましょう。各市民センターで60才以下の方も囲碁同好会に入会していただき、そのうち60才以上の有志で寿囲碁同好会を結成し碁楽連に加入すればよい。碁楽連規約に関係なく、直ちに実行可能であります。碁楽連に入らず活動している囲碁同好会も多数あるようです。碁楽連は制約ばかり多く、入会のメリットが少ないのが理由のようです。入会勧誘の働きかけはやる必要があります。と同時に気楽に入会でき、メリットを享受できるように出来ないか検討する必要があります。

17 市民センターのうち、寿囲碁同好会のない 6 市民センターにも囲碁同好会の結成を働きかけていきましょう。碁楽連への入会勧誘には市民の皆様にも碁楽連をもっと知って頂く必要があります。そのためには、いかに広報を充実するか極めて大切な問題です。廣島川口やまゆり寿同好会会長から会報編集委員会、ホームページ編集委員会を設置して広報の充実を図るべきだと言われました。

最近、「碁楽連だより」への投稿が活発になり大いに結構なことです。一般市民が興味を持てるような内容をより充実して、広く市民に配布してはと思います。ホームページは私が数年前に作成してから特に大きな改善もせず数年経過し陳腐化してきました。IT を職業としてきた若い気力、体力、センスのある方に編集を担当していただき全面改訂し広報に役立てていただきたいと思います。

広報という意味では 17 市民センター、クリエイトホール等に定期的にポスターの掲示・チラシの配布を行う、11 月 3 日の市民囲碁大会以外にも市民に開かれた囲碁大会を年に何回か開催する、有志会員が市内の囲碁団体を訪問してコミュニケーション、入会勧誘を行う等いろいろあると思います。また昔あった生きいき囲碁八王子大会も復活してはと思います。

日本は既に超高齢社会になり高齢者の貢献なしには社会は成り立ちません。現在、子供囲碁教室、入門・初心者教室、一部の学校でのボランティア活動等をおこなっていますがポスター、チラシ等でもより積極的にボランティア活動を PR して社会に貢献してはと思います。そうすることにより市民の認知度も一層高まり囲碁ボランティアをやるうと入会される方もいらっしゃるのではないかと思います。

碁楽連の段位は甘すぎると世間から馬鹿にされるようでは新人の入会は躊躇されます。碁楽連の七段だといえれば世間から尊敬されるような段級位システムを確立することが望ましいとも言えます。生きいき囲碁地域大会では極端な場合 13 名グループで実質 3 勝(不戦勝 1 勝、対局 1 勝、抽選で本戦 入りし 2 勝)すれば昇段するようなシステムで、改善しようと数年前に高段者から提案があり段級位検討委員会を設置して改善案を検討して総会にかけましたが否決されました。会員の昇段の要望は強く当然考慮する必要がありますが碁楽連の活性化、新人の入会のためには世間相場も考える必要があります。非常に難しい問題ですが会員に受け入れられる改善の方法を見出していく必要があります。

幸い 23 年度総会で碁楽連活性化対策検討諮問委員会の設置が議決されました。活性化の諸提案を検討し実行するには幾多の障害を乗り越えていくエネルギーが必要です。気力、体力に満ち、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を備えた若者が参加され具体的な成果をあげられることを期待いたします。

(碁楽連だより 5月号 第237号 2011年5月1日)